

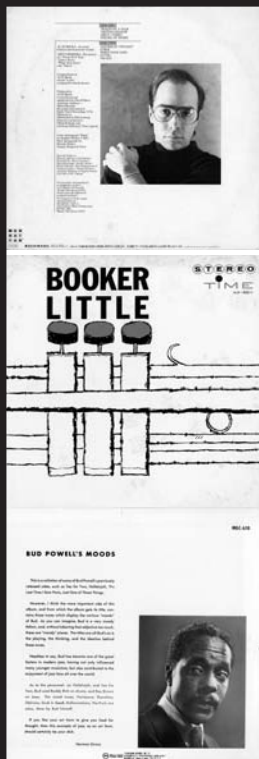
Café 屋台の珈琲

ミルクホールの最後のパーティの日、「9月になったら工事現場で屋台の仮店舗を開くから…」なんて、バイトOB達に話していたところ、その一人が「ああ、前に話してた、焼け跡珈琲ですね」と、言った。ああ…と、私は思わず彼の顔を見返し、その時まで私自身すら忘れていた事を思い出したのです。そういえば私は、「もし、また関東大震災みたいなのすごい事があって、鎌倉が焼け跡になるようなことになったら、真っ先にこの場所にテント張って、名古屋の親戚や知り合いに頼んで珈琲豆やなんか取り寄せて、焼け跡珈琲屋をやるのが夢なんだ」って、軽口をたたいていたものです。もちろん、大地震も、焼け跡もないに越したことはないし、地震は本当に怖い。そんな事態にそんな元気があるかどうか… だけど、ただ私の目には殺伐とした瓦礫のなかで、珈琲が香っている様子が、なんとほのぼのとした光景として浮かん



でいました。私が生まれてまだ小さかった頃、街中には戦後の焼け跡に出来てそれ以来続いていたようなバラックの立ち並ぶ市場がにぎわっていたのです。そこでは、八百屋や魚屋ばかりでなく、傘直し屋、砥ぎ屋それに、うどん屋やおでん屋さんまで並んでいました。活気があって色々な人達が寄り合う市場が楽しくて、子供心にもどこかわびしくもあり、愛着を感じたものでした。それが時とともに次第に街から消えて行きました。そんな私の甘い郷愁も手伝って、「焼け跡珈琲」の話なんかしていたのでしょ。言った私が忘れていた事なのに、よく彼は覚えていてくれたものです。小さな屋台のようなお店は、人と人の距離も近く、座っても体が半分外に出てしまっているようなものですが、それもまた楽しいかな…と、思っているのですが。

ミルクホールの仮店舗は…
JAZZ屋台カフェ・ミルクホールを9月7日にオープンします。
JAZZや珈琲を、普段以上に味わって頂く覚悟です。
工事現場の珈琲とJAZZ、
如何でしょうか？



COLUMN

鎌倉の猫事情
第九十八話



暑い暑い日本の夏も、そろそろ盛りを越えてでしょうか。毎年毎年、お盆、8月15日終戦記念日、そして連日繰り返される甲子園の熱い戦い…けたたましく鳴き続けるアブラハム、日本の夏は数十年これが繰り返されてきました。それにしてもお盆の送り火の日と終戦記念日が同じというのは、不思議な符合だという気がします。皆で、戦争で亡くなった多くの人達を知らず知らず今も送っているのですから。グーニー君にとっても今年は初盆です。果たして猫も実家に戻るでしょうか？今年の我が家は、例年とまるで違ってきます。7月4日にミルクホールが無くなって以来、あわや放浪の一家となるところ、ミルクホールから程近い所に、仮住まい兼仮事務所を借りる事が出来ました。ここへは、ほんの手荷物と、スィーピーとグーニーのお骨(もちろん先代の仏壇も)を連れて引っ越して来ており、どうやら落ち着くことが出来たのです。引越し前、解体されつつあったミルクホールの2階の部屋で、一人取り残されたスィーピーが何時間もぼんやりと座りこんでいた姿があまりに痛々しくて、この仮住まいにスィーピーが馴染むか大変心配しましたが、部屋の真中に木造の廻り階段があるこの家は、初めからスィーピーは気に入った様子でした。グーニーが存命なら、二人でこの階段で遊んだらうな、と思います。結局さほど心配したほどでもなく、仮住まいでの生活が始まりました。スィーピーが迷子になるという心配もあって、赤い首輪と鈴をつけることにしました。首元でチリチリ鈴がなるのも、気にする様子もなく、新しい住まいをあちこち探検して歩いています。ある日、絶対出られるわけもないのに、スィーピーが外に行ってしまう大変心配しましたが、何時間かすると、玄関で「ニャア」と泣いて帰って来ました。また、随分と鈴をつけてあちこち歩き廻っていると思うと、ちゃんと私の横で眠っていました。じゃ、あの鈴は?? どうやらグーニーが初盆に里帰りのしたのでしょうか。そう思い、グーニーの仏壇にはするめを焼いてあげました。お盆の間、スィーピーも何度も仏壇に行行って手を合わせていました。これ、本当です。 うそのような、本当のお話…



— to be continued



ミルクホールタイムス総集編
「鎌倉ミルクホールタイムス」
No. 001 ~ No. 100

ミルクホールタイムスを、創刊号より
終わりまで編集致しました。
私達と、グーニーとの初めての出会い
から、グーニーとスィーピーの運命的な
出会い、出産、グーニー家と宿敵との
熾烈な戦いの顛末など、懐かしいエピソードでいっぱいです。

¥1500



ミルクホールタイムス
定期購読募集

ミルクホールタイムスは、
毎月25日に発行しております。
定期購読のお申し込みは、
毎月25日郵送いたします。
休業中のお申し込みは、
ミルクホールホームページにて。
また、FAX、メールなどで、
お待ちしております。

年間購読料 ¥1500



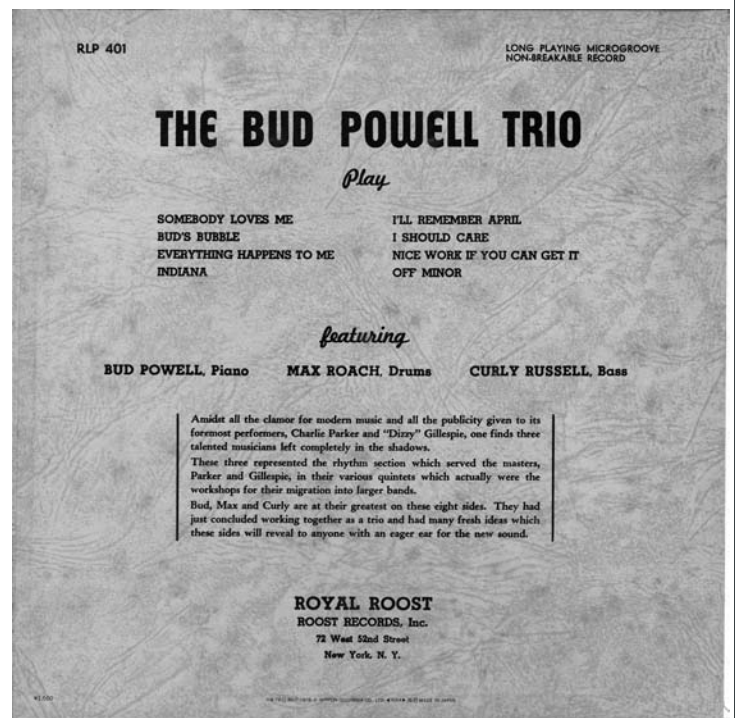
JAZZ exhibition

バド・パウエル(Bud Powell 本名:Earl Rudolph "Bud" Powell, 1924年9月27日 - 1966年7月31日) ジャズ・ピアニスト。チャーリー・パーカーやディジー・ガレスピーらによって確立されたビバップスタイルのジャズを、ジャズ・ピアノの分野に定着させ、「モダン・ジャズピアノの祖」とも称される。現代も続くピアノ、ベース、ドラムスの「ピアノ・トリオ」形式を創始した。

◆「バド・パウエルの芸術」 1947年の初リーダー・セッション8曲と53年の8曲をカップリングした作品で、モダン・ジャズ・ピアノのバイブルとまでいわれる名作。特にカーリー・ラッセル&マックス・ローチと組んだ47年の演奏では、天才ぶりを遺憾なく発揮している。アップ・テンポの〈2〉はスピード感と泉のように湧き出るイマジネーションの豊かさに圧倒される本作のハイライト。53年録音(後半の8曲)は、ジョージ・デュービエ&アート・テイラーとの演奏。

ブルーノート・レコード

The Amazing Bud Powell, Volume One - 1949 and 1951 sessions.
The Amazing Bud Powell, Volume Two - 1953 session.
The Amazing Bud Powell, Volume Three - Bud! - 1957 session.
Time Waits -The Amazing Bud Powell, Volume Four - 1958.
The Scene Changes' -The Amazing Bud Powell, Volume Five- 1958.
The Complete Blue Note and Roost Recordings -
Four discs, including all the above sessions plus the 1947 Roost session and one recorded in 1953 for the same label.



bud powell

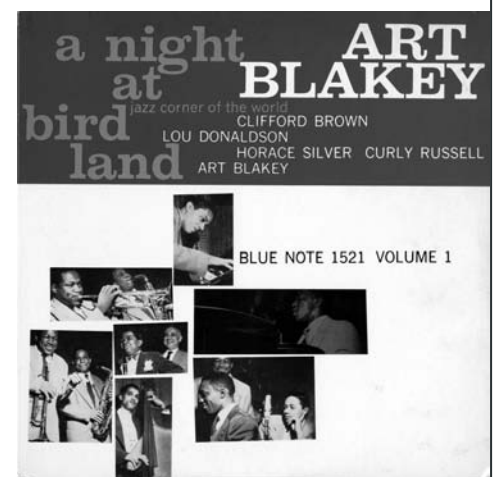
ベルトラン・タヴェルニエ監督の映画「ラウンド・ミッドナイト」で、フランスでの演奏活動を行っていた頃のエピソードが世に知られることとなったバド・パウエルの生涯は、波乱に満ちたものであった。

1924年9月27日、アメリカ合衆国ニューヨークに生まれる。祖父はフラメンコ・ギタリスト、父はスライド・ピアニスト、兄はトランペット奏者という音楽一家に育った。

1940年代後半から50年代初頭がバド・パウエルの音楽面の最盛期。麻薬やアルコールなどの中毒に苦しみ、また、パウエルは統合失調症であったと思われ、その治療で電気ショック療法を受けていた。また警官に頭部暴行を受けた為に指が以前のように上手く動かなくなっていたことから、50年代中期以降の衰えは著しかった。しかしながら、不調期の録音といえども呻き声を発しながらの鬼気迫る演奏が残されており、これをもバドの一つの個性として評価されている。

1960年代初頭は本国アメリカに一種のジャズ不況が訪れ、パウエルもまたフランスに渡って活動を続ける。アメリカと異なる良好な環境と好意的な聴衆に支えられて麻薬禍から脱却するが、既に体はボロボロであり、1966年アメリカ帰国中に死去した。

同じジャズピアニストであるセロニアス・モンクとは深く親交があり、若き日のパウエルはモンクから音楽理論を学んだと言われている。ピアニストのリッチー・パウエルは彼の弟である。ジャズ・トランペッターであるクリフォード・ブラウンと共にリッチーの妻であるナンシーの運転する車に同乗中、若くして交通事故でこの世を去っている



JAZZ 屋台 (仮店舗)

カフェ・ミルクホール

9月7日 OPEN! 工事現場にて

8月26日に、予定されている上棟式が無事終わった頃、ミルクホールは屋台の建設に取り掛かります。そして9月7日、オープンしたいと考えています。

9月7日より11月中旬まで 2ヶ月限りのJAZZ屋台!

何が起きるか、わからない
どこまでできるのか?
ミルクホールスタッフが、
工事現場でギリギリ取り組む
JAZZ屋台カフェです。
8席ばかりの、刹那の空間で
JAZZと珈琲、お酒も少し…
スタッフ一同お待ちしております。



MENU

ブレンド珈琲・紅茶各種
デザート・ホットドッグ
生ビール・日替わりおつまみ等

お願い
営業がスタートした段階
で、間に合わないものもあると予想されます。
準備不行き届きな事があるかと考えますが、
何卒ご了承ください。

再生ミルクホールへ
2010年 12月初旬!

今年7月4日PM6:00にて、ミルクホールは休業致しました。
ミルクホールは37年間の営業を閉じましたが、現在ミルクホールは、もう一度再開する為の改築工事中です。地元斉藤建設の建築スタッフとミルクホールの現スタッフが協力し、また長年ミルクホールを支えた旧スタッフ達が駆けつけ、初めて店を作った1972年に還り、斉藤建設が築くしっかりした土台の上に、37年前にそうしたように、柱を建て、壁を塗り、一度外した窓やドア、カウンターを組み上げ、壊れた部分を一つ一つ手直して、ミルクホールをもう一度再現致します。

そしてミルクホールをこの先、子や孫の代まで、50年、100年と繋いで行くのが、私達の願いです。

12月初旬には、いつまでも変わらずここにあるミルクホールが戻ってきます。その日まで、今しばらくお待ち下さい。

ミルクホールマスター& スタッフ一同

HISTORY

KAMAKURA
場所の記憶 No.48

ミルクホールのルーツ No.33 スタッフたち

2010年 7月4日 6:00 PM
さよなら ミルクホール

7月4日、お通夜をすませてどうやら1時間遅れでパーティに加わる事が出来ました。店内には見渡す限り懐かしい顔、顔、37年間のスタッフたちが集まって来ています。十代、20代、30代、40代、50代、60代、お客様まで含めると70歳代までが。あちこちから連絡を受けた人達が皆お酒やおつまみ持参で集合してきたので、テーブルには食事と飲み物が十分に並んだようです。良かった…。裏のキッチンでは、厨房スタッフたちが、もう明日から不要になってしまう食材を駆使して最後の料理づくりに奮闘しているようで、奥からも次々に料理が運ばれて来ています。お隣さんからは、手作りのお料理が届けられました。本当に有難いことです。そんな中なごやかな雰囲気の中で、マスターのご挨拶が始まりました。そして、工事をして下さる斉藤建設の社長さんにもご挨拶を頂き、歴代のスタッフ代表が指名され、次々と挨拶に立ちます。初めに立ったのは、ミルクホール初代バーテンボーイの方、今では校長先生をしておられるとか。さすがに堂々としたスピーチでしたが、校長先生にとってもマスターは今でもマスターで、少しばかり青年の顔に戻っていたようです。それから、ミルクホール唯一の二世代スタッフ。今も美人のお母さんが、やんやの喝采を受けてのご挨拶。そして次々にバトンが渡されて…



次号へ続く

